

新武蔵野クリーンセンター(仮称)生活環境影響調査書に対する意見と市の考え方

意見書提出の意見 1 件  
 市内説明会での意見 4 2 件  
 市外説明会での意見 7 件 \*練馬区・西東京市(生活環境に影響を及ぼす区域設定による)

「意見書」

生活環境の保全上の見地からの意見 1 件

	意見の要旨	市の考え方
1	<p>今後計画される事業が周辺地域にどのような変化をもたらすかを知る上で重要なものとなり、周辺住民を含む多くの関係者に理解を求め協力が得られるものでなければなりません。使用されている多くの地図は古いものが用いられている。掲載する図・表は最新のものを使用すべき。</p> <p>バッググラウンド濃度について年間平均値と期間平均値を使い分けられているが、&lt;注&gt;が小さな表記のため理解しにくい。付加濃度も最大着地濃度が計画地内なのか広域でのデータなのか説明書がないため、わかりにくい。</p> <p>説明会資料は周辺住民や関係者に理解や協力を求める大切な手段だと考えるが、地図・表・図が1ページあたりに詰め込まれ、数字は小さく地図は読み取れない程、線が入りこんでいるため、特に高齢者の人たちはつらい説明資料です。A3版の大きさに拡大した資料が見やすいのではないかと。過去(現クリーンセンター)は、B4版の大きさで手書きでわかりやすい資料であった。</p> <p>概要版の計画地内でのメッシュ地図が説明会資料にないため、大気質等最大値出現地点と周辺地点の位置がわかりにくい。親切的な説明会資料作成を要望します。</p> <p>説明会資料(表13)の気象専門用語である逆転層、ダウンウォッシュの説明がないため、どんな現象なのか理解が難しい。図や説明文を入れ、着地点が予測以外の場所になることを表示すべき。時として自然は予想外の事象を発生させるということを肝に銘じておくことが大切です。</p> <p>説明会お知らせリーフの吹き出し「今よりもさらに安全になります」の表現は時と場合によって誤解を招く内容になる。福島原発事故の例やイタリア・セベソでの薬品製造工場の爆発でダイオキシンによる地域汚染に至った例は安全神話をくつつがえしました。むしろ「今よりもさらに安全配慮します」と表現すべきです。</p> <p>計画された事業が実施され、稼働が始まった事後の調査及び報告が予測評価の示すように総合的に生活環境の保全に支障がなかったという結果報告なることを願う。</p>	<p>本調査書内に使用している地図については、国土地理院で作成及び管理されたもので、公表する資料に多く使用されている地図です。そのため、地図が更新される頻度が限定されています。ご理解のほど、よろしく願います。</p> <p>説明会資料やリーフレットなどは、文字の大きさやレイアウトなどに十分配慮するほか、専門用語使用時には注釈を入れるなどし、わかりやすいものを作成するように心掛けていきます。また、誤解を招く表現を用いないように留意いたします。</p> <p>建設工事中及び本格稼働後には「事後調査」を行う予定としており、本予測評価の内容に対して、工事中や稼働後の環境等の状況に基づき検証し、環境保全措置等の適正な履行状況等の確認を行っていきます。</p>

「市内説明会での意見」

生活環境の保全上の見地からの意見 2 3 件

	意見の要旨	市の考え方
1	<p>【検診】                  現在、施設周辺の住民を対象とした健康診断を実施しているが、新施設稼働後も継続されるのか。今、都営は対象外なので今後も実施するのであれば対象に入れてほしい。</p>	<p>現在、緑町3丁目、吉祥寺北町5丁目、緑町2丁目3番地域(UKパークタウンと都営第2)を対象とした健康診断を実施しています。これまで30年弱健康診断を実施してきて、健康被害は確認されていません。全国的にもごみ処理施設の安全性が確認されてきているところですし、当施設もより良い施設を目指しています。そのため、健康診断の必要性や新たな環境影響を確認する方法などを議論していきます。</p>

	意見の要旨	市の考え方
2	<p>【規模】 焼却量が既存195t/日から新規120t/日になり、施設がもっと小さくなると思っていた。図面を見ると大きくなっている感じがする。実際はどうか。</p>	<p>従来よりもごみの発熱量が高くなっており、公害自主規制値を低く設定している関係で焼却プラントもそれに対応するために機器点数が増加しているので、より広い設置スペースが必要になる傾向があります。また、新たに発電設備を併設することも機器点数の増加要因です。しかし、新施設ではプラットホームを地下化するなど、コンパクト化を図っております。本事業の入札に際し、現在、事業者提案を求めている段階であり、施設のコンパクト化に努めるような仕様としています。</p>
3	<p>【規模】 新施設の建物の高さはどの程度になるのか。また、焼却量120t/日は最大であると思うが、通常はどの程度の焼却量になるのか。</p>	<p>建物の高さは現施設の約20mより低くなる提案を事業者に求めています。現在、ごみ搬入量は平均して約100t/日搬入されていますが、これはごみピットに貯留され、設備のメンテナンス等で焼却炉を停止させる等の対応をしています。ごみピットの貯留量で焼却量や運転炉数を決定しています。よって、1年間連続して約120t/日焼却しているわけではなく、1炉運転の日や全炉停止の時もあります。目安としては2炉運転が年間約160日、1炉運転が約160日、全炉停止が約30～40日とお考え下さい。</p>
4	<p>【防音】 首都高速の大橋ジャンクションを視察したが、高速道路の排気筒及び設備はかなりの防音対策を講じている。ジャンクションには再開発事業で住宅棟が2棟併設しており、ほとんど音が聞こえない状態になっており、優れた吸音対策を行っている。本施設も同様な対策を行うように最大限努力していただきたい。</p>	<p>現在、事業者選定手続の中で、事業者騒音対策についても提案を求めています。</p>
5	<p>【騒音・振動】 バックグラウンド騒音、振動とはなにか。クリーンセンター周辺には大野田小学校、第四中学校、総合体育館など文教施設が多い。これを管轄しているのは教育委員会である。今後、新施設建設に伴い空気環境の変化や交通車両の問題が考えられるので、このような説明会には教育委員会にも同席していただきたい。</p>	<p>施設を休止させ、施設の影響を除いた時の通常状態にて測定したものをバックグラウンドといい、バックグラウンド騒音、振動とは、この時の騒音と振動の状態です。教育委員会への情報提供をしていきます。</p>
6	<p>【騒音・振動】 低周波音などもきちんと対応してもらえるものと考えているが、URの周りでは大規模な工事が立て続けに行われている。URの建物も高層化されたため、地上部よりも高層部において騒音の影響が出ると言われている。高層部の騒音にもしっかり対応してほしい。また、建設工事だけでなく既存施設の解体工事においても十分配慮してほしい。</p>	<p>騒音対策については、事業者と十分に協議を行って対応しています。既存施設解体工事については、ダイオキシンの問題もあるので建物を全てを覆った上で工事をする想定であり、騒音も一般の解体工事よりは小さく抑えられることと考えていますが、十分配慮していきます。</p>
7	<p>【低周波】 低周波音とは何か。簡単に測定できるような機械があるのか。</p>	<p>周波数の極めて小さい、人間の耳が音として認識できないような周波数100Hz以下の音のことです。簡単に測定できる機器があります。新施設ではしっかりと対策をとり、周囲に影響が出ないようにしていきます。</p>
8	<p>【安全対策】 建設工事が開始されると、周辺住民が徐々に関心を持っていくと考えられ、安全性が心配になってくる。大規模震災時に建物全体が延焼したり、集じん装置等の排ガス処理設備が壊れて、高濃度の有害物質を含んだ排ガスが大気へ拡散されてしまう等のリスクについて、安全対策はどのように考えているのか。</p>	<p>災害に強い施設づくりを重視して計画しています。建築及び設備の耐震性については、現施設の1.25倍を計画しています。地盤も地質調査では安定していることが確認されています。災害時には、必ず安全に停止し、設備の安全点検を行う運用しています。問題ない事が確認されたら、新たに設置予定のガス・コージェネレーション設備を用いて、焼却炉の運転や緑町ゴミセンを含めた周辺公共施設へ電気の供給を行う計画としています。</p>
9	<p>【排ガス】 福島原発事故時の放射能分布は西から東へ流れていったので、排ガスも同じ傾向になるのではないかと感じるが。</p>	<p>一年測定したデータ及びバルーン・GPSを飛ばした結果では、北・南という風向きの傾向でした。昨年とも若干違う風向きになっているのが現状です。地理や高度的な違いもあるため、福島原発における放射能分布と必ずしも同じにならないと考えられます。</p>

	意見の要旨	市の考え方
10	<p>【大気】 大気質について、濃度が極めて小さく実際には測定できないという説明であったが、このような数値を明記する必要があるのか。</p>	<p>測定の下限值は0.001でこの数値を下回ると測定器では0になっています。今回の結果において実際に測定できるのは、上空だけとなり、地表では測定下限値未満となりますが、生活環境影響調査においてはこのようなコンピュータ上の数値を表記することになっています。</p>
11	<p>【排ガス】 排ガスの飛散状況のシミュレーションについて、2年前と今回の調査で結果が大きく異なるのはなぜか。</p>	<p>結果が異なったのは、解析に用いている元のデータが異なるためです。2年前は現施設の排ガス条件を用いましたが、今回は新施設の排ガス条件を用いました。また、気象データも2年前は東京管区気象台のデータを用いましたが、今回は市内の測定データを用いており、より精度が高まりました。風の方向は異なりましたが、北方向も南方向も濃度にほとんど差異がないと考えています。 2年前のシミュレーションでは、到達位置は遠いですが、値は今回調査の倍程度です。到達位置は近くなりましたが、検出値は小さくなっているため、より安全側となっていると理解してください。</p>
12	<p>【排ガス(ダイオキシン類)】 今は焼却炉の建設にあたり、ダイオキシン類などとても厳しい基準があると聞いているが、新施設もこの基準に則るのか。</p>	<p>最新の基準を遵守します。自主目標は現施設が1.0ng-TEQ/Nm3、新施設が0.1ng-TEQ/Nm3です。都内23区の清掃工場でも自主目標は0.1ng-TEQ/Nm3です。しかし実際には0.0000・ng-TEQ/Nm3と極めて少ない量しか検出されていません。新施設も同様の基準となる想定です。</p>
13	<p>【排ガス基準】 現施設を建設するにあたって色々な基準を決めて、これまで守り続けている。新施設はさらにきびしい基準になるとの説明であった。こちらに個々のデータが正しいのか確認するすべはないが、他の清掃工場とデータを比較することもできるし、特に武蔵野市の施設は都市型施設。基準の中でしっかり運営して行ってほしい。また、不具合があれば適宜改善をはかり、よりよい施設にしていってほしい。</p>	<p>自主規制値として定めた厳しい基準を遵守していきます。そのために最新の設備を導入し、厳しい運転管理を事業者に求めていきます。</p>
14	<p>【灰】 新施設では焼却灰・集じん灰(飛灰)は、場内のどこの位置から搬出されて、どこへ運ばれていくのか。</p>	<p>搬出位置は、現施設では煙突西側の部分が灰ピットになっており、そこから搬出しています。新施設では、煙突東側からになり、煙突を中心に反対称な位置となる予定です。搬出先は、現在と同様、日の出町にある「東京たま資源循環組合のエコセメント化施設」です。</p>
15	<p>【緑化】 屋上緑化は工場棟のみとなっているようだが、管理棟にも行った方がよいのでは。室内環境への寄与も踏まえ、人が滞在するところへの屋上緑化があった方がよい。</p>	<p>都の自然保護条例の規定により、壁面と屋上で必要な緑化基準率が決まっています。工場棟の方が壁も屋上も面積が大きいので工場棟を優先して屋上緑化していますが、これは事業者提案により、最終的に決定します。</p>
16	<p>【環境】 環境がより良い方向に向かうという説明を聞き、安心している。今後も時々、説明の場を設けてほしい。また、下水や緑や空気を含めた総合的な環境をよりよくしていくことも検討してほしい。環境政策課や下水道課などと連携をとり、総合的によい環境となることを望む。</p>	<p>新施設に関する説明会は今後も開催いたします。エコプラザという環境啓発等の機能を有した施設の設置も考えており、環境を総合的に捉えた取り組みを進めるため、環境部の連携を図っています。</p>
17	<p>【地下水】 地下水を止水壁で遮断するとのことだが、壁にあたった水はどうなるのか。くみ取るのか。</p>	<p>止水壁を逃れて流れていくことになります。</p>
18	<p>【煙突】 煙突の高さについて、景観の検討のために以前URパークタウンのA7棟、B7棟からの写真を用いた分析をしていたと思うが、それは今回の調査とは別なのか。結果を見たい。</p>	<p>煙突の位置や高さについては変わりません。今の緑と白のストライプは空をイメージしたデザインですが、色やデザインについては今後の検討になります。A7棟、B7棟からの写真を用いてモニタージュを作成しています。今回作成した調査書の本編に掲載しています。</p>

	意見の要旨	市の考え方
19	<p>【景観】 今回建物が北東に寄るが、今は桜の木や緑地帯やバラ園が緩衝帯となっており、道路から直接建物が見えにくいようになっている。説明のモニター写真では、緑が少なく建物が直接見えてしまっている。建物を地下化することで、木を植えるのがむずかしいのは理解できるが、直接建物が見えるのはよくない。</p>	<p>工事予定地外の歩道の桜は街路樹として残されます。クリーンセンター敷地内においても、なるべく多くの樹木を植えたいと考えており、できる限り景観に配慮します。</p>
20	<p>【車両】 交通関連調査の地図で、市役所側からURの敷地内に道路が伸びているが、この道路も工事車両が通行するのか。収集車も通っていないと思うが。</p>	<p>敷地周辺の道路を想定して調査を行いました。収集車もごみ収集以外では通り抜けをしていません。工事車両についても通行することは考えていません。なお、工事については、別途地域の方々と協議する場を設ける予定です。</p>
21	<p>【車両】 車両の出入りに関して、二酸化窒素の目標値が高いのでは。以前は0.04ppm以下であったはず。きちんと対策をとってほしい。</p>	<p>今回の調査結果では、環境基準を満たしてはいますが、事業者決定後に具体的な対策を検討していきます。</p>
22	<p>【地質】 このあたりの地盤は強いのか。</p>	<p>地盤は安定しています。武蔵野礫層という支持層に基礎を打ち、かつ耐震性の高い建物を建設する計画です。</p>
23	<p>【調査全般】 この調査は交通やCO2など分野が多岐にわたっているが、それぞれ専門家が調査したのか。</p>	<p>それぞれ専門の調査会社が調査を実施しています。</p>

その他の意見 18件

	意見の要旨	市の考え方
1	<p>自治体によってはプラスチックごみを分別せずに焼却しているようだが、武蔵野市は新施設移行後も分別が必要なのか。</p>	<p>新施設移行後も収集方式は変える予定はありません。埋め立てごみの減量と資源化の推進のため、市民のみなさまの協力により、ごみの分別の徹底を図っているところです。今後ごみの減量化、きめ細かな分別を市民の皆様にお願ひしていきます。</p>
2	<p>新施設ではごみの処理能力が現施設よりも減るとのことであるが、もしバブルのような時代が再来した場合、ごみの量が増えて処理しきれなくなるのではないかと。</p>	<p>経済動向などの影響でごみ量に増減があることは考えられますが、ごみの発生抑制とリサイクルが進んでいるため、焼却するごみの量が大幅に増えないと想定しています。また、若干の余力は見込んで最大処理能力を算定しています。実際に燃やすごみの量が施設の規模に比べて少なすぎると、施設の稼働ができなかったり、効率が悪くなったりするだけでなく、施設の建設費用や工事期間の増大も懸念されます。その上で処理量120t/日の計画としています。</p>
3	<p>都営とURパークタウンの間の道路が最近整備されたが、その延長であるNTTから市役所への道の整備もこれから行われると聞いている。緑町コミセンまでの道路についてはどう改善されるのか。現在では狭くて暗いので、歩きにくい。</p>	<p>市道第240号線については、都営住宅の建替えがあったため、それに合わせて道路の整備が行われた経緯があります。緑町コミセンまでの道については桜の木が歩道上にはみだして歩いて歩きにくいなど課題があります。施設・周辺整備協議会の協議内容を踏まえながら、クリーンセンターの周辺整備の検討を行っていきます。</p>
4	<p>昨今の放射能の問題で、市の「落葉堆肥を行わない」という方針により、落葉は焼却処理されていると思う。よって、焼却ごみ量が増加している。落葉は、今後はどのようにしていくのか。</p>	<p>今年度は、落葉堆肥は行わないこととしておりますが、放射能の問題については、デリケートな問題で安全を第一に考えていることをご理解をください。出来るだけ早く市の方向性を示したいと考えています。</p>

	意見の要旨	市の考え方
5	<p>プラスチックのゴミを出すときに、ゴミを小さくするためにはさみで切り刻んで出していたが、あまり細かく切り刻まれていると、何のゴミかわからないからリサイクルできなくなるという話を聞いたことがある。どのように出せばよいのか。</p>	<p>市内にはプラスチックのリサイクル施設がなく、瑞穂町にある民間のリサイクル事業者の工場に運んでいます。この工場までの距離が20kmほどあるので、ゴミを小さくしてもらえると運搬の効率が上がります。しかし、あまり細かくなっていると、プラスチックのゴミが判別がつかなくなってしまうので、はさみで切り刻みをいれてつぶした形でゴミを出していただくと助かります。</p>
6	<p>これまで現施設が27年稼働していて、問題は発生していない。行政もきちんとやっているし、周りの市民も見守ってきた。これまでの実績を踏まえ信頼している。より安全な施設になるので不安はない。よりよい施設を期待している。</p>	<p>更により施設にすることはもちろん、今後も運営協議会などとの連携をとり、協力をいただきながら管理運営を進めていきたいと考えています。</p>
7	<p>ボイラや破砕機は、以前に何回か爆発事故があったと聞いている。新施設の安全対策はどのようなことを考えているのか。</p>	<p>爆発事故は不燃・粗大処理設備の破砕機で発生しています。現施設の破砕機は、高速破砕機が1台設置されています。アセチレンガスが充填されたボンベ等がそのまま破砕機に入り、高速回転している刃とボンベが接触して摩擦熱が発生し、噴出したガスに引火することが原因で爆発が発生しました。現在は、破砕機へボンベ等が入らないように受入れの段階で人的な対応をしています。新施設では、破砕機を2台設置して、低速の粗破砕機で前段でボンベ等を潰して、引火するガスを抜いてから、高速破砕機で破砕するような設備を設置し、爆発しにくい構造とします。ボイラについては、最新設備になり、より安全性の高いものになります。</p>
8	<p>新施設は、最新技術を組み込んだ施設になると思うが、ボイラや配管構造等について、現施設とどのような違いがあるか。</p>	<p>大きな違いは、公害基準値が新施設では更に低い設定になりますので、窒素酸化物を除去する触媒脱硝設備等の排ガス処理設備が増加する予定です。また、ゴミ発電を行うことより、熱回収効率をあげるための設備であるエコマイザ・過熱器等のボイラ関連設備も増加します。現施設は、苛性ソーダという液体の薬品を噴霧して中和処理を行う湿式処理設備を設置していますが、新施設は消石灰や重曹を用いて排ガス処理し、熱回収効率を高めます。</p>
9	<p>清掃工場がこの場所にあるということに対して、住民として運営管理等について牽制しながら市にお願いしている。平成29年度まで約30,000t/年までゴミ減量する予定になっている。以前は減少傾向であったが、最近では増加傾向であると聞いている。ゴミ減量を市全体で進めていただき、かつクリーンセンターがここにあるということを知っていただきたい。市はどのように考えているか。</p>	<p>平成24年10月に環境関連部署5課にて環境部が発足しました。ゴミ減量については、この環境部で連携して取り組んでいきたいと考えています。また、その中でもゴミ総合対策課とクリーンセンターとは密に連携をとりながらゴミ減量施策を進めていきます。</p>
10	<p>市内のゴミ量についてのグラフを見ると、近年急激にゴミ量が減っているが、ここ数か月で市内の人口が急激に増えている。人口が増えれば、その分ゴミ量も増えてしまうと考えられるが、最終的な目標時の人口はどの程度を想定しているのか。</p>	<p>この目標を定めた平成19年度には、平成29年度の人口は14万人を超えると予測していました。つまり平成19年度から10年で約5000人ほど増えるという予測です。ゴミ焼却量は平成19年から新施設が稼働する平成29年までに5000t減らす計画です。これまで減量が進んでいますが、平成29年までに2000t弱の減量が必要であり、さらにゴミ減量施策を進めていきます。</p>
11	<p>現在の焼却炉は65tが3基、新施設では60tが2基となるということだが、人口14万人分のゴミを処理できるのか。ゴミ減量化を市民の努力で進めていくことも重要だが、限界もあると思うので不安だ。</p>	<p>余裕は2割程度見込んでおり、多少ゆとりを持たせた設計としています。過去には年末などのゴミが多く発生する時期は3炉運転を行うこともありましたが、現在はゴミ量も減り、1年のうち半分が2炉運転、半分が1炉運転となっています。この運転状況を鑑みても、60tが2基で十分対応できると考えています。過剰設備となると、費用もかかり、設備の運転効率も悪くなります。</p>
12	<p>数年前に爆発事故があった。また他市では水銀が混入したこともあった。ゴミを出す市民の理解も必要。行政による広報や啓発についても努力してほしい。</p>	<p>ゴミ総合対策課と連携を図りながら、市民の方への広報・啓発活動を進めていきます。</p>

	意見の要旨	市の考え方
13	今回敷地の一部を事業者が施工、一部を市が施工と分かれているようだが、緑化計画書は事業者が作成するのか。	市と事業者で調整し、敷地全体で緑化計画を作成します。
14	壁面緑化は手入れも大変なのは。	事業者には新施設の設計から竣工後の運転管理及びメンテナンス(20年間)まで含めて一括で委託する方式としており、壁面緑化の手入れについても事業者が負担することになります。当然、メンテナンスのことも考慮した提案となると考えています。
15	DBO方式は一般的なのか。	清掃工場の整備運営の事業方式については、DBO方式が主流になりつつあります。プラントの大きさや形状により建築物の形状も変わるため、設計・施工を一括発注した方が効率的であり、プラントを施工した事業者が運転管理していく方が合理的であるため、清掃工場の場合、DBO方式が適しています。
16	施設・周辺協議会で建築物のデザインについても議論しまとめてきたが、意見と相反するような建築デザインが提案された場合、施設・周辺協議会から反対意見を出すようなことはできるのか。	原則はできませんが、事業者には施設・周辺整備協議会で決めたコンセプトを遵守した計画を提案するように求めているので、相反するような計画が提案される可能性は低いと考えています。事業者決定後、事業者との協議の中で部分的な修正を行うことは可能と考えています。
17	緑町コミセンまでの道路が狭く、街路樹も生い茂っているので歩きにくい。拡幅してほしい。今後予定はあるか。	周辺のまちづくりについては、施設・周辺協議会で検討を進めており、緑町コミセン前の歩道整備の意見が出ています。この件も含め、今年度末に「施設・周辺整備協議会」の報告書がまとまる予定であり、報告書を受けてさらに検討を進める予定です。
18	バラ園はなくなってしまうのか。どこかに移転するのか。	当初はバラ園を敷地内のどこかに残すことを考えていましたが、バラ園の開設から7年程度経過しており、バラの寿命がおおむね7年であることや、このバラ園にあるバラはラボックにしかない特殊な種類であり、日本の気候への適合が難しいことから、交流事業課が市民にバラを配布する予定です。クリーンセンターの建替えに伴いバラ園は閉園しますが、今後別の場所に設置するのか、新クリーンセンターの敷地内に設置するのかは未定です。
19	新施設の耐用年数は。また30年経過したら現施設の位置に建替えとなるのか。	設備機械の耐用年数は概ね30年と言われていました。平成29年に稼働を始めて、30年後どうなるのかは未定ですが、30年も経てばごみ処理の手法が飛躍的に前進する可能性もあります。さらにリサイクルが進み、ごみの焼却量が著しく減ることも考えられ、広域処理となる可能性もあります。

## 「市外説明会での意見」

### 生活環境の保全上の見地からの意見 6件

	意見の要旨	当市の考え方
1	練馬区の光が丘清掃工場では排ガスからアスベストが検出された。武蔵野市では検出されているか。	光が丘清掃工場では震災がれきを受け入れていると聞いており、排ガス中のアスベストの測定もしていると認識しています。当市では震災がれきを受け入れておらず、一般の建材も受け入れていないため、排ガス中のアスベストについては測定していません。
2	建設工事が始まれば、工事車両が増えて区境に住んでいる人たちは不安になると思う。	事業者決定後に調整し、路地のような狭い道は通行しないようにするなど工事車両のルートについても十分配慮していきたいと考えています。工事車両や工事機械の選定についても、事業者と十分に調整を図っていきます。

	意見の要旨	当市の考え方
3	<p>新クリーンセンターに関心がある子育て世代の知り合いがいる。放射能やアスベストのことを心配しているようであった。現クリーンセンターでの測定の状況も含め、放射能やアスベストについて教えてほしい。</p>	<p>放射能については、月1回測定して市のホームページでも情報公開を行っています。ごみを焼却する過程において、排ガスの飛灰に放射能が移行しています。この灰はバグフィルターで捕集しており、煙突から外部へ排出されることはありません。煙突で放射能を測定しているが検出されていません。バグフィルターで捕集された飛灰においては、800～900ベクレルという測定結果になっています。東日本大震災の直後は最大で2300ベクレルを検出したこともありました。焼却灰及び飛灰は市内ではなく、日の出町にあるエコセメント工場でリサイクルされています。日の出町では8000ベクレル未満であれば受入が可能であり、市で焼却灰を保管することなく適切に処分することができます。（日の出町の方々には感謝しています）</p> <p>アスベストについては、新施設では使用しません。現施設の解体工事着手前にアスベストの有無を確認します。清掃工場では、ダイオキシンの問題もあるので、解体時には建物を全て覆った上で工事をする想定であるので、安全性に配慮した形で行います。</p>
4	<p>工事車両のルートは周辺地域では配慮しても、離れたところでは配慮しないことも考えられる。周辺地域外でも路地には入り込まないなどの配慮を徹底してほしい。</p>	<p>周辺地域外の工事車両のルートについても、十分配慮していきます。</p>
5	<p>地下水について、遮蔽することにより周辺地域も含めて他に影響がでるのではないか。</p>	<p>地下水脈がある武蔵野礫層は砂利層で全体が常に湿っている状態です。この地下水脈は井の頭公園の方まで続いており、吉祥寺駅周辺でも地下を掘ると水が出てくることが多く、今回の工事のような遮蔽は一般的によく行われています。これまで大きな影響が出たという話は聞いておらず、本工事は地下のトンネルのように長い区間遮蔽するわけではないので、他に影響がでることは想定していません。ただし、事後調査を行い影響の検証を行う予定としています。</p>

その他の意見 2件

	意見の要旨	当市の考え方
1	<p>現施設から新施設への切り替えはどのように行うのか。</p>	<p>当市には1つしか清掃工場がないので、現施設を稼働しながら同じ敷地内に新施設を建設します。新施設の工場部分が完成したら、煙突をつなぎかえて、新施設の試運転を行います。現施設には焼却炉が3つあり、それぞれ煙突があるので合計3本の煙突を有しています。1炉停止し、その間に煙突をつけかえるという形で順次つなぎかえを行う予定としています。新施設の稼働ができる状況になってから、現施設を解体します。</p>
2	<p>市のホームページも見たが、周辺住民の方々と丁寧に話し合っている印象を持った。</p>	<p>当市の清掃工場は住宅地の中にあるので、周辺の方々の理解なくしての稼働はあり得ません。これまで28年間安全に施設を稼働してきました。今後も周辺住民の方々のご理解とご協力をいただきながら、安全な施設建設と運転管理を徹底していきます。</p>